

# 魂は、流されない。



## 【女川・獅子舞（獅子振り）】

女川町では浜ごとに、神社と獅子頭があり、正月や祝い事などの折に、獅子振りが行われる。獅子頭の格好、振り方、太鼓や笛のリズムは、各浜によって微妙に異なり、どこも自分たちが最高と考えている。以前は男性のみが携わるものだったが、竹浦で女性に門戸を開いたのをきっかけに、女性や子どもの参加は他の地区にも広がっている。



正月には獅子振りが家々を訪れる神事が行われる。まず最初は獅子振りが来たことを知らせ、その家の主人をこぼく「たんぶつ唄」。その後、獅子が家族全員の前をかむ仕草をして無病息災を祈ったのち、最後は獅子が乱舞して悪魔と格闘する。太鼓も笛も一段と激しくなり、ここが一番の見せ場となる。



今回竹浦の方々が、各場面の一部を神社の前で実演してくださいました。この神社は高台にあったため、間一髪で津波を免れた。あと石段数段のところまで水が迫ったという。ここに避難した多くの住民の命は助かった。(取材に応じてくれた鈴木成夫さんが笛、阿部祐美さんは左の太鼓を担当)

竹浦ガールズの1人、阿部則恵さん(29)が持っているのは、避難生活の間、求心力となった手作りの獅子頭。代わりの獅子頭が来た今でも、二渡・五十鈴神社に大切にしまわれていた。

集落が震災後、避難生活を送った秋田県仙北市でも獅子振りが強い絆となった。みんなが沈み込むなか、「獅子振りで活力を取り戻そう」と声が上がったのだ。しかし、道具一式はすべて流されてしまっていた。幸い、笛や太鼓は地元の好意で借りられたが、肝心の獅子頭がない。そこで住民の1人が、座布団、スリッパ、空き缶で獅子頭

を作った。それは竹浦復興に向けたシンボルともなった。



竹浦集落のあった場所より海を望む

現在、竹浦地区の高台に新たな

竹浦では25年ほど前から、次世代に継承していくため、子どもたちに笛や太鼓、獅子の振り方を教えてきた。男性のものであった神事の女性参加にも、門戸を開いた。異を唱える声もあったが、中心となる世代は嫁いで竹浦を離れても、獅子振りをやっていたら故郷を忘れることはない」と主張した。

その狙い通り、今では十数人の「竹浦ガールズ」が獅子振りの主役。その一人、阿部祐美さん(31)は「小さいころからやっているから、笛や太鼓のリズムが染み付いている。太鼓の音を聞くと血が騒ぐ」とこぼしている。でも獅子振りをやるという声でみんな集まる。自分の子どもたちにも受け継いでいきたい」と語る。仮設住宅など、40カ所近くに分散して暮らしている竹浦の住民だが、獅子振りの際は人が集まるという。



失われたオリジナルの獅子頭。現在、竹浦では新しい獅子頭の到着を待っている。

女川の獅子頭復活のめどはついたが、すべての道具がどうなるかは半年以上かかる見通しだ。来年の正月、少なくとも3月11日の三回忌には間に合わせ、女川挙げての獅子振りをやりたいと期待が高まっている。

竹浦では現在、仮の獅子頭を作り、なんとか獅子振りを継続しているが、オリジナルの獅子頭復活を望む声は強い。「獅子頭はいわば魂。それは流されていない。全浜の獅子頭を元通り復活させて、女川全体で盛り上げられる日を夢見ている」(鈴木さん)

に住宅地を開拓して集落を移転する計画が進んでいる。そしてこのほど、東日本大震災被災文化財復旧支援事業により、竹浦をはじめとした女川の獅子舞復活への支援も決定した。「新しい竹浦になっても獅子振りで培われた絆は不変。震災で地域の絆があちこつで失われるなか、地域の文化財を復活させることは復興の大きな原動力になる。そこに着目してもらえたのは、とてもありがたい」(鈴木さん)

心のよりどころを取り戻すために。

## 「東日本大震災被災文化財復旧支援事業 Save Our Culture — “心を救う、文化で救う” (略称 SOC)」の募金について

募金は、下記の口座にお振り込みいただくか、クレジットカードからの募金も可能です。

三井住友銀行 上野支店 普通 6615496  
 口座名義 (公財)文化財保護・芸術研究助成財団  
 ●銀行振込の場合、振込者の確認が難しいため、領収書・お礼状の発行等の必要上、財団事務局に、事前にご連絡をお願いします。 電話：03-5685-2311

または

郵便振替 振替番号 00160-5-12319  
 加入者名 (公財)文化財保護・芸術研究助成財団  
 (通信欄に「SOC」とお書きください)

●当財団は公益財団法人の認定を受けており、2千円超のご寄付は税法上の優遇措置が受けられます。  
 ●本事業の詳細、クレジットカードからの募金方法などにつきましては、<http://save-our-culture.jp/> をご覧ください。

東日本大震災によって被災した文化財の復旧支援という、救済用途を明確にした募金活動です。おかげさまで多くの皆様から温かいご支援をいただき、今年5月末までに国内外から約1億4000万円の寄付金を集めることができました。文化財保護・芸術研究助成財団が実施する東日本大震災被災文化財復旧支援事業の一環として、今年2月までに都道府県教育委員会を通じて受け付けた助成申請のうち、82件の美術工芸品、建造物、記念物、無形文化財の復旧支援に役立てられます。引き続き、皆様からの温かいご支援をお待ちしております。

## 募金要項

このたびの東日本大震災で多くの文化財が被災しました。これらの文化財は長く地域社会において人びとの心のよりどころとなってきました。こうした文化財の復旧を目指して、文化財保護・芸術研究助成財団はワールド・モノメント財団(本部ニューヨーク)と連携し、文化庁、東京芸術大学の協力を得て、広く国内外に募金を呼びかけるキャンペーン「東日本大震災被災文化財復旧支援事業 Save Our Culture — “心を救う、文化で救う”(略称 SOC)」を実施しています。



皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

SOCについて詳しくは  
 ▶▶ <http://save-our-culture.jp/>

広告

私たちは、本事業を支援します。



企画・制作=日本経済新聞社クロスメディア営業局